

平成 26 年度 明石市地域自立支援協議会

しごと部会 リポート Vol.9 平成 26 年 12 月 1 日発行

発行元：明石市地域自立支援協議会 しごと部会事務局
 (基幹相談支援センター) TEL：078-918-5252



【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています

12月になり、年の瀬の気忙しい季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？しごと部会の事務局を担当しております基幹相談支援センターの南部丈晴です。年末のしごと部会のリポートは、山崎会長、賀部副会長にご登場いただきます。就労部会、しごと部会と牽引されてきた山崎会長、しごと部会から新しい視点をもち活動を広げてこられた賀部副会長に部会活動を振り返り、展望等について、全2回にわたり語っていただきます。

【1】 今年度の活動をふりかえって・・・

(山崎会長) 前年度の就労部会からしごと部会へ大きな変化がありました。就労部会では、「就労・生活支援センターあく」とが主体となってきましたが、現在のしごと部会では様々な人がワーキングを通して関わってくれています。支援機関の職員が集い、利用者の思いを代弁し、部会全体が、いい意味で発信源になってきているなあと感じています。部会活動は、支援者にとって「はたらくこと」をキーワードに利用者の生活を支えるための手段や方法を支援者同士で協議する場であり、福祉サービスや制度に関する情報等を共有の場でもあります。また、更に誰にとっても参加しやすく、情報を得ることのできる場としてしごと部会が大きな役割を担っています。この部会が発信源になり、明石市のはたらくことを支える支援機関の成長や明石市全体の底上げに繋がっていくことを望んでいます。

(賀部副会長) 今年度、仕事部会の副会長を担うことになり、「働くことを知る」ことを目標に半年間、しごと部会の活動に関わってきました。僕自身、今まで就労支援に携わる機会が少なかったこともあり、各ワーキングの参加は新たなことを知る機会、気づきの場になっています。特に「はたらくことを支えるための仕組みや体制作りには、現場の現状や利用者の声を集約することが不可欠です。現状の活動に留まらず、支援者同志で地域課題の把握や的確な情報の共有など、部会活動はまだまだ、発展途上にあります。より多くの支援者が部会活動に関われるように、明石の就労支援を盛り上げていきたいです。

【2】 就労支援で大事にしていることを一言でお願いします

(山崎会長) 私は、障がい者の就労に関わり始めた時は、障がいを持っている人の就労を特別なものと考えていたなあと思います。今は、障がいがあるとかないとかに関係なく、一人ひとりの働く機会をあたりまえとして捉えていくよう心がけています。

(賀部副会長) 僕も山崎さんと同じ考えかもしれません。その人にあった就労は、障がいがあってもなくても考えていかなければならないことで、一般社会の感覚を大事にしながら関わっていかれたらと思います。僕はこれからなんですが、人として向き合い、できるだけ多くの障がい者の方が「働くこと」を経験できるように考えていきたいと思っています。この部会が中心となり、積極的に関わっていければと考えています。

次回 (Vol.10) も、引き続き、会長と副会長のインタビューの報告を予定しています。編集頑張ります！(南部)



山崎会長 (左) と賀部副会長 (右)